

宮崎県の早期水稲の新奨励品種「さきひかり」の特性

井場良一・上田重英・吉岡秀樹・若杉佳司¹⁾・加藤 浩
(宮崎県総合農業試験場・¹⁾宮崎県農政水産部)

Ryoichi Iba, Shigehide Ueda, Hideki Yoshioka, Keizi Wakasugi and Hiroshi Kato :
The characteristics of a new early-promoting rice cultivar "Sakihikari" in Miyazaki Pref

1. 奨励品種採用の理由

宮崎県における2002年の水稲作付面積は、約20,363haで早期栽培が9,080ha (45%) 普通期栽培が11,283ha (55%) であり、本品種の対象となる早期水稲栽培では、その97%が「コシヒカリ」となっている。その結果、一品種集中による収穫作業や乾燥調整施設の利用競合、病害虫の発生や気象災害による被害が深刻化する問題が起きており、「コシヒカリ」と作期分散ができる極良食味の栽培特性の優れた新品種の選定が関係者から望まれていた。

「さきひかり」は「コシヒカリ」に比べ出穂期は5日、成熟期は10日ほど遅い極良食味の多収品種であり、2002年11月の宮崎県奨励品種選定会議で採用が決定され、2004年以降普及の予定である。

2. 来歴および育成経過

「さきひかり」は、晩生の強稈・良質・極良食味品種を目標に、1989年福井農試で晩生の極良食味「ヒノヒカリ」を母、強稈・極良食味で直播適性をもつ「キヌヒカリ」を父として交配、1994年F6から福系6164の系統番号が付され生産力検定、特性検定試験、1996年には系統適応性検定試験に供試された。1997年には「越南174号」と命名され各県に配布して地域適応性が検定された。宮崎県では、1997年から農試、2000年から現地で奨励品種決定調査試験を行い諸特性について検討してきた。

3. 品種および栽培特性

本品種は、「コシヒカリ」と比較して稈長は7cm程短く、穂長は2cm程度長く、穂数はやや少ない偏穂重型である。草姿は立性が強く止葉も立ち、耐倒伏性は「やや強」である。また、出穂期は5日、成熟期は11日程度遅い早期の晩生種である。

収量は多収性で17%程度の増収となり、年次による変動も比較的少ない。玄米千粒重はやや大である。そのため玄米では乳白粒がやや見られるが、多肥区では減少し同程度になる傾向がある。

いもち病は「やや弱」、白葉枯病は同程度の「中」である。また、耐冷性は「強」、穂発芽性は「難」で同程度である。

4. 玄米品質および食味評価

玄米の外観品質は、乳白・心白粒がやや発生し「コシヒカリ」よりも若干劣る。食味は、外観・粘りともに良く総合で「コシヒカリ」より優れる。また、アミロース含有率とタンパク質含有率はともに「コシヒカリ」よりやや低く、粘りと食味向上の要因となっている。

5. 今後の方向

平成15年度は総合農業試験場で原原種、原種、採種生産を行い、16年度から早期栽培が主体となる沿海部を中心に推進され、一般生産者の栽培が始まる予定である。

第1表 生育・収量調査

試験場所	品種系統名	出穂期		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏程度 (%)	穂いもち (%)	玄米重 (kg/a)	同左千粒重 (%)	千粒重 (g)
		(月,日)	(月,日)								
総標	さきひかり	6.24	8.01	65.7	19.0	435	0.1	0.0	60.6	117	22.8
合肥	コシヒカリ	6.18	7.21	73.3	16.9	456	0.4	0.3	51.8	100	21.7
農多	さきひかり	6.27	8.04	67.7	19.0	441	0.2	0.0	59.9	112	22.7
試肥	コシヒカリ	6.22	7.25	75.7	17.2	451	0.6	0.0	53.8	100	21.4

注) 総合農業試験場の標肥の数値は、1997~2002年の6か年の平均。他は2000~2002年の3か年の平均。
倒伏は0.0(無)~5.0(全倒伏)、穂いもちは0.0(無)~5.0(甚)。

第2表 玄米品質および検査等級

施肥	品種系統名	粒大	腹白	心白	乳白	茶米	品質	検査等級
標肥	さきひかり	5.0	0.2	0.6	1.1	0.3	4.3	2下
	コシヒカリ	5.0	0.0	0.2	0.1	0.8	3.7	1下
多肥	さきひかり	5.0	0.1	0.6	0.3	0.5	4.3	2下
	コシヒカリ	5.0	0.1	0.5	0.3	0.5	3.8	1中

注) a) 標肥の数値は、1997~2002年の6か年の平均。b) 多肥は2000~2002年の3か年の平均。c) 粒大は4.0(やや小) 5.0(中) 6.0(やや大)。d) 腹白、心白、乳白、茶米は0.0(無)~9.0(甚)。e) 品質、検査等級は1.0(上上)~9.0(下下)。

第3表 食味官能評価および精米成分含有率

施肥	品種系統名	食味			精米成分含有率	
		外観	粘り	総合	アミロース含有率 (%)	タンパク質含有率 (%)
標肥	さきひかり	0.1	0.4	0.4	15.9	7.1
	コシヒカリ	0.0	0.0	0.0	16.9	7.7
多肥	さきひかり	0.1	0.4	0.4	16.5	6.8
	コシヒカリ	0.0	0.0	0.0	17.6	7.6

注) a) 標肥の食味の数値は、1997~2002年の6か年の平均、多肥は2000~2002年の3か年の平均。b) 食味は、比較を0として-3~+3の7段階評価。c) 標肥のアミロース含有率は1997~2002年のうち1999年を除く5か年の平均。多肥は2000~2002年の3か年の平均。ブランドレー社のオートアナライザーで測定。d) 標肥のタンパク質含有率は1999~2002年の4か年の平均、多肥は2000~2002年の3か年の平均。静岡精機食味計で測定。e) 精米成分含有率は15%水分換算。

第4表 宮崎県および育成地の成績概要

品 種	宮崎県総合農業試験場 (1997~2002年)		福井県農業試験場 (1995~2002年)	
	さきひかり	コシヒカリ	さきひかり	コシヒカリ
熟 期	早生の晩	早生	晩生の晩	中生の早
草 型	偏穂重型	中間型	偏穂重型	中間型
出 穂 期	6.24	6.19	8.13	8.02
成 熟 期	8.1	7.21	9.24	9.09
稈 長 (cm)	66	73	79	90
穂 長 (cm)	19.0	16.9	19.2	17.7
穂 数 (/m ²)	435	456	419	414
芒・長 短	稀・短	稀・短	稀・短	稀・短
ふ先色・ふ色	黄白	黄白	黄白	黄白
脱粒性	難	難	難	難
耐倒伏性	やや強	弱	やや強	極弱
イモチ抵抗性	Pia, i	+	Pia, i	+
葉いもち	やや弱	弱	やや弱	弱
穂いもち	やや弱	弱	やや弱	やや弱
白葉枯病	中	中	やや強	やや強
縞葉枯病	罹病性	罹病性	罹病性	罹病性
耐冷性	強	強	強	強
穂発芽性	難	難	難	難
玄米重 (kg/a)	60.6	51.8	66.8	65.3
標準比	117	100	102	100
玄米千粒重 (g)	22.8	21.7	22.3	21.7
玄米品質	4.3	3.7	3.3	3.6
食 味	上中	上中	上中	上中
アミロース含量 (%)	15.9	16.9	15.9	17.2
タンパク質含量 (%)	7.1	7.7	6.1	6.3